

新たなチャレンジでダカールラリー2016に参戦

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長：岩瀬隆広）のラリーチームであるチームランドクルーザー・トヨタオートボデー（以下、TLC）は、2015年1月3日にアルゼンチンブエノスアイレスをスタートする『ダカールラリー2016アルゼンチン～ポリビア』の市販車部門に、当社が開発・生産を担うランドクルーザー200シリーズをベースにしたラリー仕様車2台で参戦し、3連覇に挑みます。

2015年8月31日に創立70周年を迎えた節目を機に、ラリー参戦活動においても新しいチャレンジをスタートさせ、“もっといいクルマづくり”への取り組みをさらに加速させます。

1995年のダカールラリー参戦以来、初となる社員ドライバーを起用するとともに、チームに帯同し、ラリー車開発を専属で担当する社員エンジニアを新たに加えた新体制で今大会に臨みます。これまでも監督やナビゲーターに社員を起用し、参戦を続けてきましたが、今回からさらに社員が担う領域を拡大することで、過酷な戦いでクルマを作る人を鍛え、その鍛え上げられた人が“もっといいクルマづくり”に邁進します。

また、ラリーに使用する燃料は、前回に引き続きスポンサー各社や近隣小中学校をはじめとする地域の方々、ならびに従業員の協力を得て集めた廃食油に加え、今回から新しい取り組みとして、(株)デンソーの藻油から精製したBDFも加えることで、環境技術の発展と循環型社会の仕組みの広がりへ貢献していきます。

1. チーム名称

チームランドクルーザー・トヨタオートボデー/Team Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY(略称:TLC)

2. ダカールラリー2016参戦体制

体制	氏名	年齢	備考	
チーム監督	カクニ ユウジ 角谷 裕司	 42歳	1973. 11. 5生 トヨタ車体(株)広報室所属 ハンドボール全日本代表という 異色の経歴を持つ。2015年よりチーム を率い、前大会ではチームを 1-2フィニッシュに導いた	
ゼッケン 343	ドライバー	ジボン・ニコラ GIBON Nicolas	 34歳	1981. 11. 7生 TLC契約ドライバー 2008年初めてTLCからダカールに参戦 し、社員ナビゲーターとのコンビで 優勝経験(09年大会)もあるエース ドライバー
	ナビゲーター	ギヤルサン・ジャン・ピエール GARCIN Jean Pierre 新	 53歳	1962. 12. 2生 TLC契約ナビゲーター(新加入) 前身となるアラコ時代にナビゲーター として活躍後、総合トップ10争いに加わる チームのナビゲーターを歴任。ジボン ドライバーとのコンビでTLCに復帰する
ゼッケン 342	ドライバー	ミウラ アキラ 三浦 昂 新	 32歳	1983. 1. 26生 トヨタ車体(株)広報室所属(新加入) 社員ナビゲーターとして2007年大会 からTLCでダカールに参戦。今大会では チーム史上初となる社員ドライバー としてデビューを迎える
	ナビゲーター	リットロイター・ローラン LICHTLEUCHTER Laurent 新	 39歳	1976. 2. 16生 TLC契約ナビゲーター(新加入) 世界各国のドライバーとのコンビを組んできた 豊富な経験を買われ、社員ドライバー育成 プログラムを成功に導くナビゲーターとして 抜擢。

体制	氏名	年齢	備考
エンジニア	イトウ カミ 伊東 克巳 新	 46歳	1969. 9. 15生 トヨタ車体(株)広報室所属(新加入) トヨタ車体ボデー設計部でプリウス、ノアなどの外装設計を経験。プライベートでは、少年野球のコーチも務めるスポーツマンエンジニア
チーフ メカニック	シャロワ・フィリップ CHALLOY Philippe	 56歳	1959. 10. 14生 TLC契約メカニック チーム発足以来、TLCメカニック陣を統括してきた敏腕チーフメカニック。メカニックの腕はもちろん、その人柄によりメンバーからの信頼も厚い
日本人 メカニック	ウチ ユウジ 内 裕二	 28歳	1987. 11. 30生 トヨタ自動車(株)より出向 TLCからメカニックとして2年目の参戦。 トヨタでの車両開発業務の経験を活かし、ラリー車両製作の場面でも活躍するチーム最年少メカニック
	マエダ カツヤ 前田 勝哉	 29歳	1986. 8. 24生 福岡トヨタ自動車(株)より派遣 TLCからメカニックとして参戦2年目。 ディーラーでの経験を活かした丁寧かつスピーディーな整備力でチームに貢献
	オガタ ユスケ 小田 裕介 新	 29歳	1986. 9. 25生 福岡トヨタ自動車(株)より派遣(新加入) 今大会からダカールラリーデビュー。 的確なトラブル解決力で、初年度から活躍が期待される

※その他、メカニック・スタッフ含む 計19名体制で参戦

【チーム発足後初となる社員ドライバーの起用による”もっといい人づくり”への挑戦】

社員ナビゲーターとしてダカール参戦経験豊富な三浦昂をドライバーとして育成。
“もっといいクルマづくり”を支える社員がラリーを通して世界中のお客様が車を使う道、環境を知り、お客様の期待を超えるクルマづくりにフィードバックすることをねらいます。

【ラリーでのクルマづくりを”もっといい市販車づくり”に直結させる社員エンジニアを起用】

当社の開発部門よりラリー車開発専任エンジニアとして伊東克巳を起用。
ラリーの現場で得られるラリー車の耐久性、堅牢性、操作性、整備性などを踏まえた過酷なラリーの現場で鍛えられる経験やノウハウをもっといい市販車づくりに活かします。

3. ダカール2016参戦車両

ランドクルーザー200ラリー仕様車

ダカールラリー2016参戦車両は、年々ハイスピード化するラリーの傾向にあわせ、サスペンションを改良し、車両の路面追従性能を高めたほか、走行中のマイナートラブルによるロスタイムを最小限にとどめる対策に重点をおき準備。アフリカモロッコ王国での自主テスト、モロッコラリー2015参戦による実戦テストを経て熟成させた車両です。なお、今大会へのエントリーはジボン/ギャルサン組がゼッケンNo. 343、三浦/リシトロイシター組がゼッケンNo. 342でのエントリーとなります。また、会社創立70周年を記念し、トヨタ車体のコーポレートカラーであるブルーを基調にした車両カラーリングに一新しました。



2016年大会参戦車両写真(ジボン/ギャルサン組)

【ランドクルーザー200 ダカールラリー仕様 車両スペック】

項目	スペック内容
ベース車両型式	VDJ200
エンジン型式	1VD-FTV型
総排気量	4,461cc
全長 / 全幅 / 全高	4,950mm / 1,910mm / 1,970mm
最高出力 / 回転数	180kW(245ps) / 3,800r. p. m.
最大トルク / 回転数	726N・m(74kgf・m) / 1,200~3,600r. p. m.
ステアリング	ラック & ピニオン式
サスペンション	前/ ダブルウィッシュボーン式独立懸架コイルスプリング 後/ トレーリングリンク車軸式コイルスプリング
ショックアブソーバー	リザーバータンク付単筒ガス式
ブレーキ	前後ベンチレーテッドディスク
トランスミッション	5速マニュアルトランスミッション
タイヤサイズ	285 / 70R17
ホイール	マグネシウム鍛造 17インチ×7.5J
駆動方式	4輪駆動(フルタイム4WD)

(上記スペックは1号車、2号車共通)

4. 参戦カテゴリー

市販車部門ディーゼルクラス(下表太枠部)

	部門	クラス
オート(自動車)	市販車	ディーゼル
		ガソリン
	改造車	
トラック		
2輪(バイク)		

※TLCはガソリンクラスを含めた市販車部門での優勝を目標に参戦します

参考)オート:110台、トラック:55台、2輪:189台の計354台がエントリー予定
(11月18日、大会公式リリースより)

5. 大会概要（ダカールラリー2016 アルゼンチン～ボリビア）

1979年より開催されているダカールラリーは、2016年大会で38回目の大会となります。今大会も南米大陸を舞台に、アルゼンチンとボリビアの2カ国にわたり、総走行距離9,583km（うち、競技区間は4,803km）におよぶ戦いが繰り広げられます。

2016年1月2日、アルゼンチン ブエノスアイレスでのセレモニアルスタートの後、3日から競技がスタート。アンデス麓のハイスピードコースを北上しながら、競技4日目にはフファイでメカニックによる一切のサポート、整備が禁止されるマラソンステージを迎えます。

その後は、ボリビアに入国し、ウユニを起点とする標高3,500m超の高地での戦いを経て、再びアルゼンチンへ。

大会7日目のサルタでの中間休息日をはさみ、ワジ(枯れ川)の中を抜ける狭いワインディングや、今大会唯一のフィアンバラ周辺の砂丘ステージを抜け、1月16日ロサリオでゴールとなる14日間全13ステージにわたるルートが設定されています。

例年に比べ砂丘シーンこそ少ないものの、一回のミスで大きなダメージを負うリスクがつきまとうハイスピード域を中心に構成される今大会は、選手に気を休める間を与えない厳しい戦いとなることが予想されます。



- (1) **日程** 2016年1月 3日～16日 計14日間(セレモニアルスタートは1月2日)
- (2) **開催国** アルゼンチン、ボリビア
- (3) **走行距離** 競技区間約4,803kmを含む総走行距離9,583km

6. バイオディーゼル燃料 (BDF)

(1) BDFによるラリー参戦のねらい

当社は基本理念に「環境との調和」を掲げ、1993年には「トヨタ車体環境基本方針」を制定し、将来にわたり、豊かで住みやすい社会の実現を目指しています。「低炭素社会の構築」、「循環型社会の構築」ならびに「自然共生社会の構築」を柱に、環境と調和したクルマづくりを通じて、社会・地球の持続的な発展に寄与しており、ラリー参戦活動においても植物性油から精製したBDFでの参戦を続けることで、サステイナブルな仕組みが広がっていくことを期待しています。

(2) 使用するBDFについて

BDFとは植物性油を原料に作られた軽油の代替燃料であり、TLCは2007年大会からBDFでの参戦に挑戦し、2009年大会からは廃食油から精製したBDFでの参戦に取り組んでいます。原料となる廃食油はTLCのラリー参戦活動に賛同頂いたスポンサー企業各社、小中学校をはじめとする近隣地域の皆さま、ならびに当社従業員などから提供を受けています。また、今回から新たに㈱デンソーにて開発された藻油も加え、2015年大会に引き続き、太田油脂(株)の協力により精製されたBDFを使用します。

(3) BDFの環境性能

TLCはダカールラリーの全行程をBDF100%で走破します。これにより総走行距離を軽油で走行する場合に比べ、CO2排出量を約60%軽減することが可能となります。

(4) TLCのBDFでのダカール参戦暦

開催年	2007(*1)	2008	2009	2010	2011	2012-2015	2016
参戦車両	ランドクルーザー100		ランドクルーザー200				
BDF使用台数 (使用台数/出場台数)	1/3台	大会 中止	1/2台	2/2台	2/2台	2/2台	2/2台
BDF混合比率	20%	-	20%	20%	100%(*2)	100%	100%

*1 2007年大会は市販のBDFを使用

*2 2011年大会は一部区間のみを軽油で走行

◆参考：過去の戦跡

開催年	1995-2004	2005-2008	2009-2015
使用 車両	ランドクルーザー80 (1995-1998) ランドクルーザー100 (1999-2004)	ランドクルーザー100	ランドクルーザー200
成績	市販車ディーゼルクラス 優勝7回	市販車部門優勝3回 (*1)	市販車部門優勝5回 (*2)
備考	アラコとして参戦 *1	2005大会よりトヨタ車体として参戦	

*1 2008年大会は大会中止によりリザルトなし

*2 2014年大会から市販車部門2連覇中